## 2012年 平成24年





## 新年のごあいさつ

そろいで清々しい新春をお迎います。皆様には、ご家族お えのことと心からお慶び申 明けましておめでとうござ 昨年の当町の出来事

さて、

当町は、 が、今後も早期の復旧に向けは全力で取り組んでおります を予算化し、 災者支援制度を創設、 家屋等の被災者には早速、 等甚大な被害を受けました 屋の損壊、 言っても東日本大震災です。 を振り返ってみますと、何と ただきました。災害復旧に 震度 6弱の地震で家 道路や農地の崩落 復興に役立てて 1億円

> バス「馬頭烏山線」が運行をの廃線を受けてコミュニティ 周年を迎えました。 (株)まほろばおがわが創立10 が50万人を突破し、 は馬頭広重美術館の総入館者 開始しました。また、 4月からはJRバス常野線

「温泉トラフグ」や休耕田を 下温泉トラフグ」や休耕田を 一方、各分野において、N 高校野球では、 一成選

手が夏の甲子園で大活躍しま 新学院高等学校の石井 女子ソフトボール大会で優勝 頭ウィング」が東日本小学生 スポーツの分野では、 12月には

那珂川町長 大金 伊一

もブランドとして確立されて

広報なかがわ 平成24年1月10日

シシの肉「八溝ししまる」

那珂川町議会議長 川上 要一

会に対しまして温かいご支援また皆様には、日ごろより議 申し上げます とご協力を頂き、 を迎えられたことと思います 願しながら、 ぞ良い年になります様にと祈 かれましては、今年はなにと 新年明けましておめでとう 希望溢れる新春 町民の皆様にお 厚く御礼を

豪雨による災害と、自然の脅大震災、夏以降は大型台風の大震災、夏以降は大型台風の る大地震は、これまでの生活かった千年に一度とも言われかった千年に一度とも言われ 威にさらされた大変な さて平成23年を振り返って

は深刻なもので、全世界を震また、福島第一原発の事故 あった気がします。深い悲しみのなか希望の光で から届いた支援や思いやりは 手を携えて支え励ましあう姿 それでも生き延びた者同士が 奪われ絶望の淵に沈む人々 た家や財産を流され、日常を や友人を失い、築き上げてき や人生観を覆すものでした。 国内はもちろん世界各地 最愛の家族

撼させました。政府発表では 廃炉までには四十 夏の甲子園大会での石井一成 い話題が続きましたが、

かかるとのことであり、

事故により避難生活を強いら を鵜呑みにしてきた社会も、安価であるという「安全神話 れている福島の方々に寄り添 る生活を少しでも改めるよう 換を迫られています。私たち ど再生可能エネルギ 震災以降、自然エネルギ うことにもつながると感じて 心掛けること。それは、この に出来ることは電力に依存す 原発の発電コスト への転

他地域に比較して低い値で安 どが起きました。庁舎などの 切に願わずにいられません。く元の生活に戻って欲しいと いかという不安は消えず、早セシウム等が検出されはしな 堵しましたが、 た、原発事故の放射性物質は だに爪痕が残っています。ま 公共施設、水道などインフラ 根瓦や塀の崩落、 はありませんでしたが、震度 にも大きな被害があり、 6弱の烈震で、町内各地で屋 当那珂川町は幸い人的被害 農畜産物から 土砂崩れな

> 活躍を見せ、震災で沈みがちジャパン」張りの目覚ましい 分野で若い世代が「なでしこ な私たちにたくさんの元気を

品薄になるほどの好評を博し 事業が軌道にのり、暮れには みません。 れも更なる躍進を期待してや ており頼もしい限りで、 民間の温泉トラフグ

です。 が具体性・実効性のある提言 られるものと確信しておりま が手を取り合い一丸となるこ の皆様と町行政、 に真摯に尽力してまいる所存 のではなく、議員一人ひとり べく、単なる批判に終始する 私ども議会も使命を果たす 多くの困難も乗り越え 議論のあとには、町民 魅力あるまちづくり そして議会

ますようご祈念を申 とってすばらしい 一年になり

広報なかがわ 平成24年1月10日

の抑制、施設の統廃合等に取更なる財政の健全化、人件費 また、東月: り組んでまいります。 1.44、人件費

は体験ツアーを試み、好評に、「マコモタケ」栽培についる。

設につきましては、今後も適 計画を策定していく所存です まいりたいと存じます。 正処理の実現に向け努力して には当町に合った新しい防災 とした地域の防災計画の見直 しを行い、 最後に、県営最終処分場建 平成24年度末まで

する人、

自然、

歴史・文化、那珂川町が有

特産品等貴重な資源が

このように、

、ます。

様との信頼関係を構築しなが ら、町民参画のまちづくりに 新年のごあいさ

な企業誘致などの諸施策に取 による新商品の開発や積極的

国及び地方とも厳しい財政

と確信しております

これからも行政と町民の皆

これらを生かす産学官連携

まちづくりが推進されるもの の知恵と行動によって協働の さらに輝きを放つよう、

ご多幸とご健勝を心からお祈 つといたします。

は第2次行財政改革推進計画 状況の中、当町におきまして